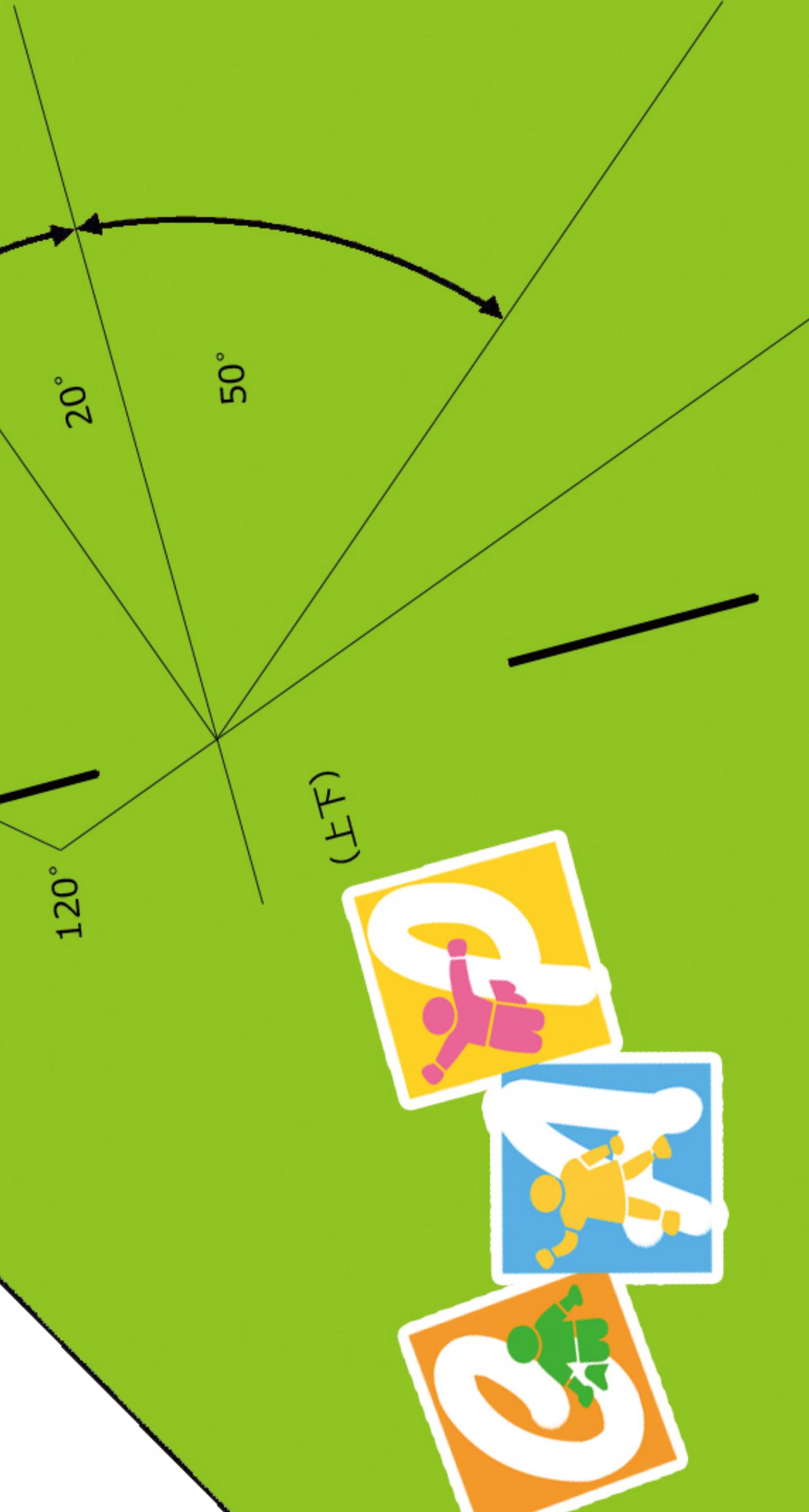
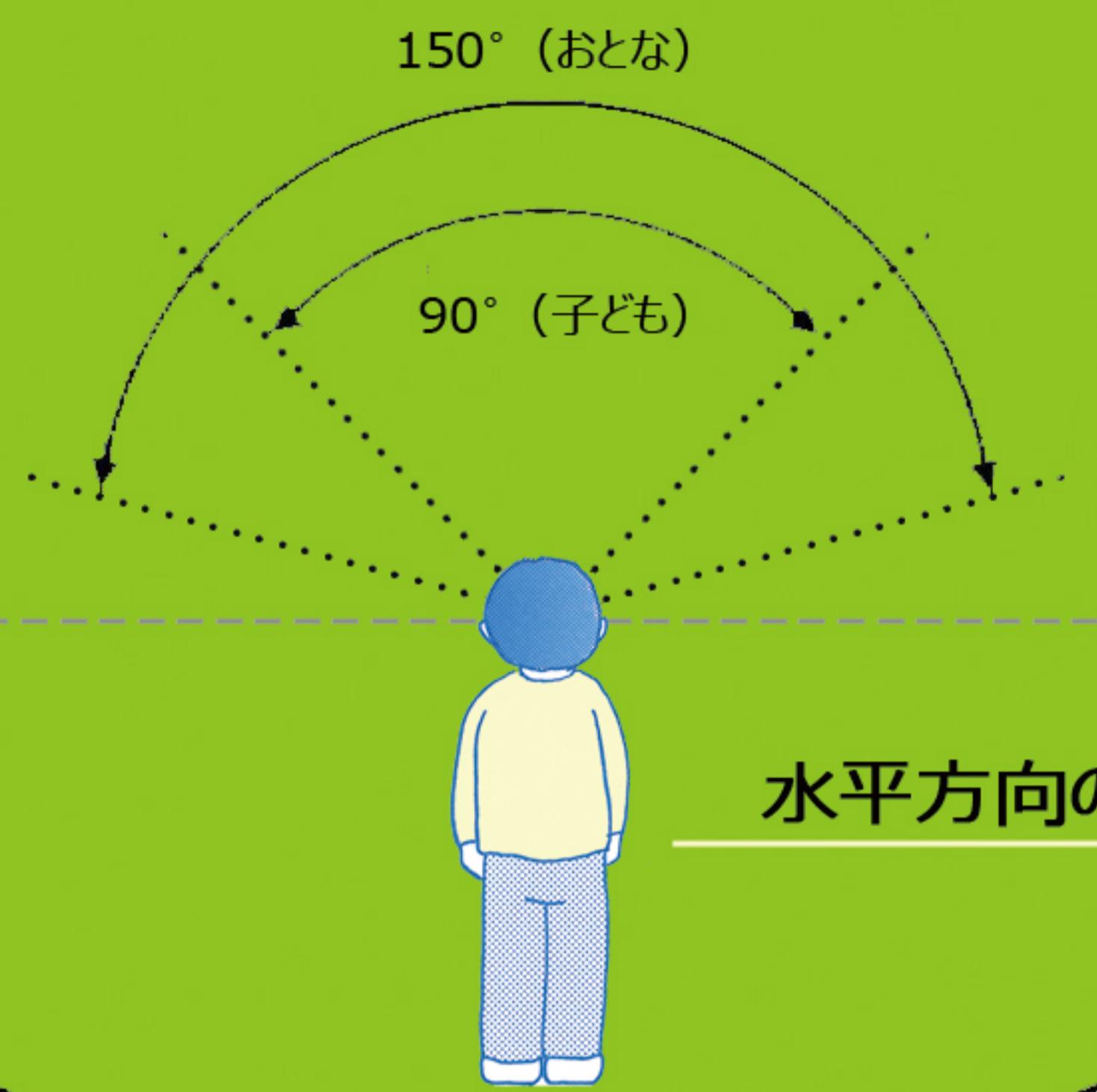
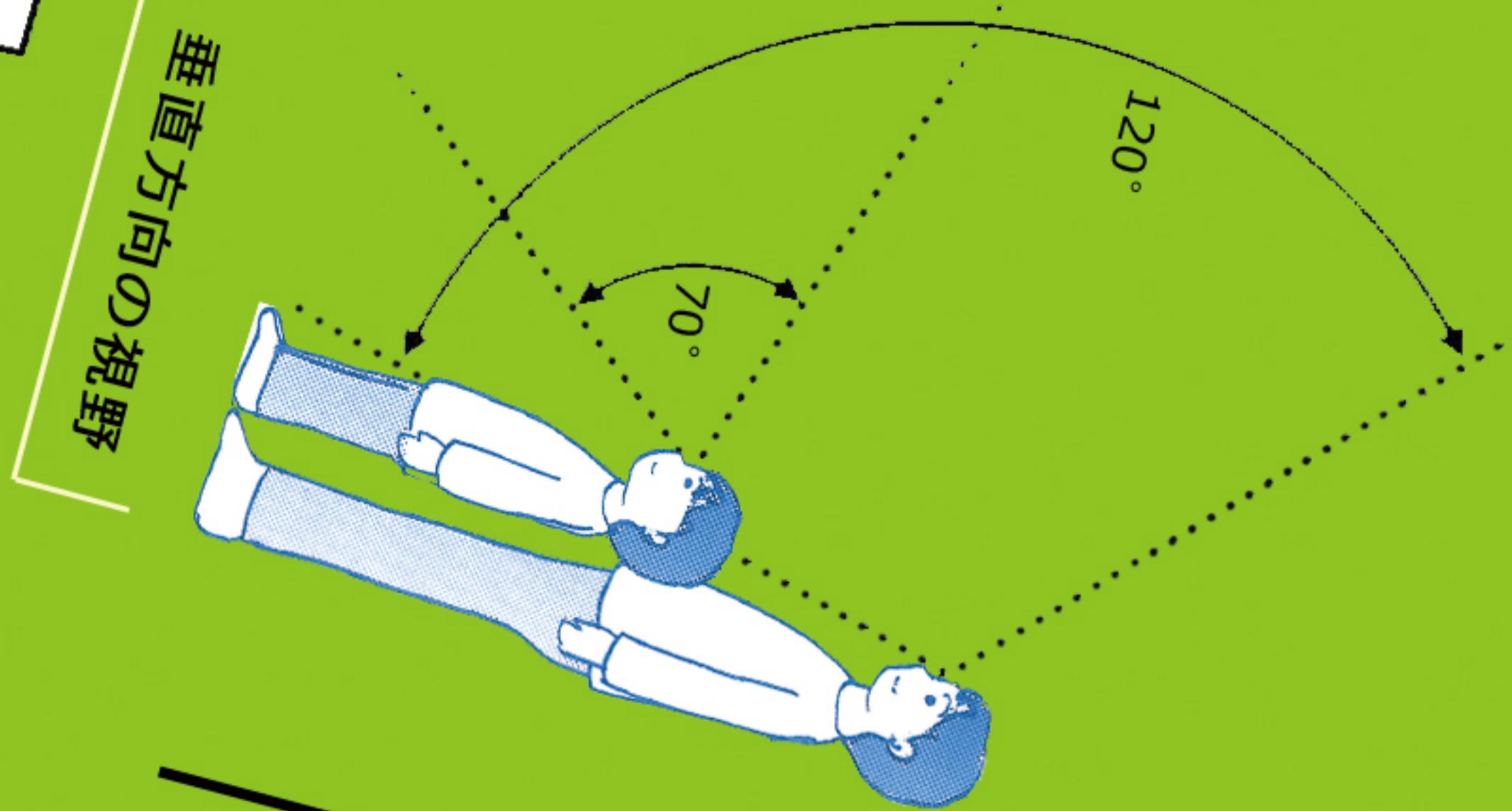


CHILD VISION

チャイルドビジョン
(子どもだけに見える世界・模擬体験メガネ)



きりぬく

きりぬく

きりぬく

子どもにだけ見えている世界

- ▶ 子どもは身長が低く、目の高さも低くなります。さらに見える範囲(視野・視界)が限られています。おとなが見ている世界とは違います。
- ▶ 幼児期のこの時期は、身近な人やものに集中する必要があるのです。それは、一度に多くの情報を取り込まないためです。
- ▶ 見えているものを、実際に手に取って触ってみたりすることで、感覚を統合しようとしているのです。いろんなものに触って、自分の感覚を楽しみ、自分の経験が自分の考えるものとなる時期です。
- ▶ 成長とともに、見える範囲や見える量が広がっていきます。おとなは見え方が違うということは、おとなとは感じ方が違うということです。



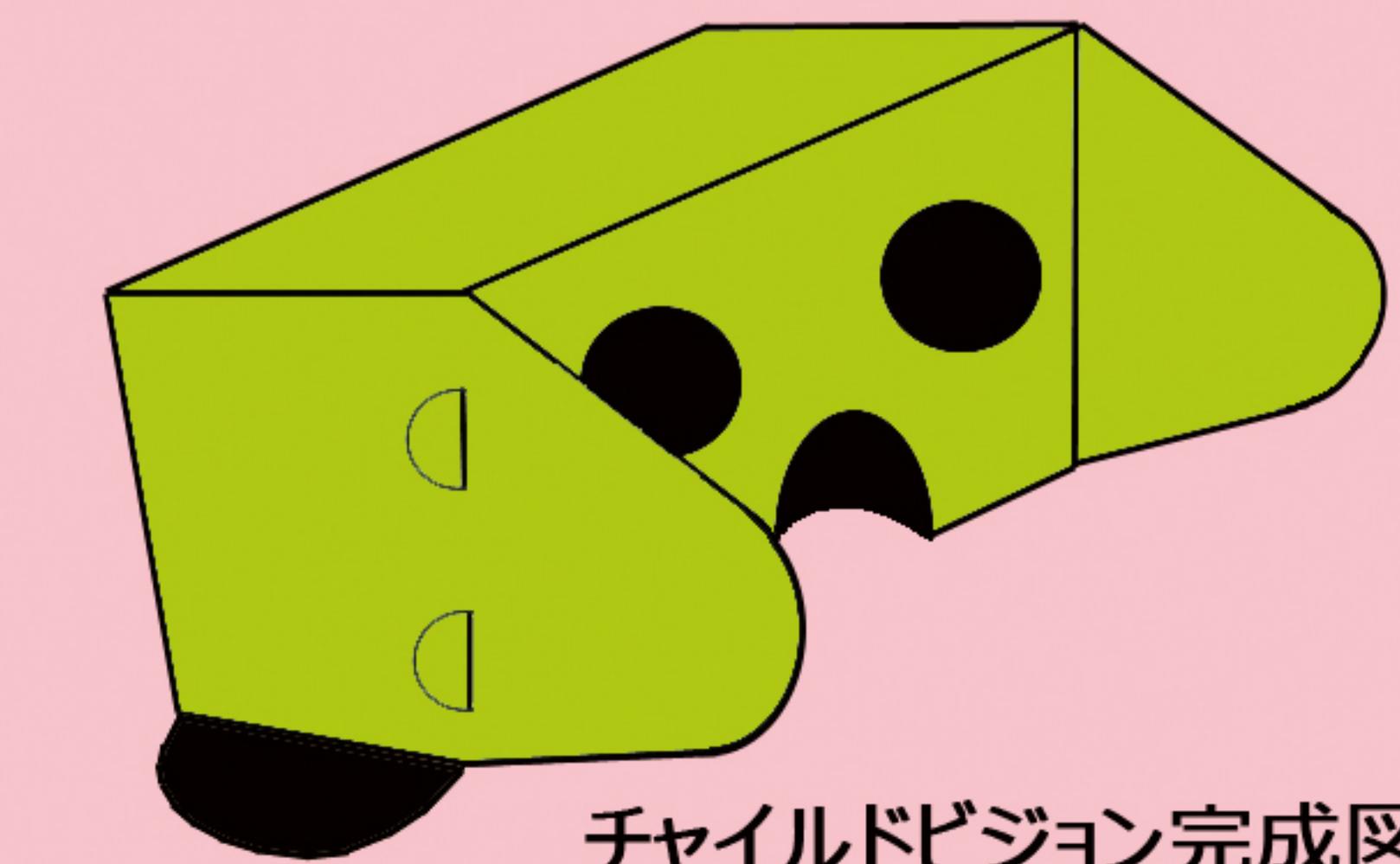
制作：認定NPO法人CAP(キャップ)センター・JAPAN
制作協力：テラダクラフトスタジオ 寺田松雄

※チャイルドビジョンは、おとなが“子どもの視点”を意識することを目的に作成したものです。

作り方

- 切りとり線
- 切り込み線
- - - 折り線 (すべて山折り)

表面が緑色、裏面が黒色です。
ラインにそってチャイルドビジョンを切り取り、
目と鼻の部分を切り抜いてください。
切り込み線はカッターで切り込んでください。
折り線をすべて山折りにし、完成図のように、
切り込み線のところにさし込んでください。



チャイルドビジョン完成図

チャイルドビジョンのうた・動画「ぼくの虹をいっしょに見てください」はこちら



きりぬく

きりぬく

きりぬく

子どもが持っている力はすごい！

「もう！この子ったら、ちょろちょろして意味わかんない！」と感じることがあるかもしれません。じつとしているのは、この時期の子どもの特徴です。まだ、先のことを考えて行動することはできません。繰り返しを楽しみ、何度も何度も同じことを楽しむことができます。“今”に集中しているときです。見守っていれば大丈夫です。見守られている、守られているという感覚がこの子どもの安心感を育みます。抽象的な言葉はとってもわかりにくいです。「してほしいこと」を具体的に言いましょう！

例)「危ない」⇒「止まって」

「ダメ」⇒「ストップ」「～をして」

「うるさい」⇒「お口を閉じて」

幼児期の子どもは、長い時間をかけて、少しづつ少しづつ変化をしていきます。その変化と一緒に楽しんでみませんか。

使い方

チャイルドビジョンを組み立てて、手に持ち、膝立ちになって見てください。膝立ちになるとちょうど、幼児期の子どもと同じくらいの目の高さ(およそ110cmくらい)になります。幼児期の子どもの視点から見て、そして感じてみてください。

例えば……

- 子どもに目の前を横切る人はどう見える？
- 子どもに少し離れた正面から、何も言わず、にドンドン近づくとどう見える？
- 子どもに顔が見えるためには、おとながどの位置に立ったらいい？

